

第2回南山大学模擬授業をうけて 8月23日(木)

1年生国際理解コース

昨年度も御講義いただいた浅野亨三先生による模擬授業を、「これからの英語教育について」というテーマで、南山大学名古屋キャンパスで受講させていただきました。1年生国際理解コースの20名が参加しました。



会場となったR棟は全面ガラス張りのきれいな校舎で、国際理解関係の案内が至る所に貼られており、まさにインターナショナルな空間でした。

担当の浅野先生のはからいで、快適な室内環境が提供された上に、アイスブレイクをペアで行うことによって、一気にリラックスした雰囲気での模擬授業はスタートしました。



浅野先生が、今回の模擬授業で最も伝えたかったことは、「英語の学習動機は何であるか」ということでした。

少子高齢化がすすむこと（津島市の人口の約3つ分＝約20万人が2002年の出生数より減少している。）に反比例して、外国人労働力が年々増えていること。ICTとAIの発展によって、パソコンやスマホにできることとできないことをしっかり見極める必要がでてきたこと。翻訳アプリを利用した英作文の精度に驚くと同時に、まだ不確実な部分があること。こうした内容を具体的に提示していただき、ペアワークも取り入れながら生徒は思考を深めていきました。

1. 南山大学へようこそ!
2. 今日は暑いところお越しくださり、ありがとうございます。
3. お目にかかれるのを首を長くしてお待ちしました。
4. ところで津島高校から南山までどうやって来たのですか。
5. 今日はちょっとしか時間ありませんが、楽しんでください。
6. いつでも気軽に遊びに来てください。お待ちしております。

時間がたつにつれて、本模擬授業の最大のテーマである「私　なんで英語やるの?」という問いに対し、一人ひとりの生徒が考えを深めて浅野先生のまとめに納得する姿が見られました。

「私　なんで英語やるの?」という問いに対する具体的な回答として、浅野先生から次のような御指導いただきました。



- 1 母語を客観視できること
- 2 消滅している言語が予想以上に多いことと、消滅させないためにもその言語を学ぶ人が増えることが必要（方言などを含めると、日本語においても消滅しつつある言語は、増加している）
- 3 人間の日常的営みの類似性や普遍性を創造することができること

- 4 他者とコミュニケーションを図ることが社会生活に必要
- 5 平和的な問題解決能の手段を学ぶために必要であること

授業の最後で、授業での気づきを4人1組のグループで摸造紙にまとめ、全体で発表して共有しました。

内容は、昨年のもので共通するところもありましたが、ペアワークなどをとりいれて、より生徒の気づきに働きかける手法をとっていただけたことで、より深い学びに結び付けられたようでした。



主体的な学びをすすめるには、生徒本人の学習動機がはっきりしていることが大切です。「受験のための英語学習はなくなる。」という指摘もいただきましたが、それに加えた自分なりの英語の学習動機を、一人ひとりの生徒にぜひ持ち合わせてもらいたいと、強く感じた意義深い授業でした。